

米国リート・プレミアムファンド (毎月分配型) 通貨プレミアム・コース

運用報告書（全体版）（第21作成期）

第119期（2022年8月22日） 第122期（2022年11月21日）
第120期（2022年9月20日） 第123期（2022年12月20日）
第121期（2022年10月20日） 第124期（2023年1月20日）

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／海外／不動産投信（リート）	
信 託 期 間	2012年8月31日から2025年4月21日まで	
運 用 方 針	安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。	
主要運用対象	外国投資信託証券である「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）ⅡーUSリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）」および親投資信託である「T&Dマネーブルマザーファンド」を主要投資対象とします。なお、短期金融商品等に直接投資する場合があります。	
	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）ⅡーUSリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）	主として担保付スワップ取引を投資対象とし、当該取引を通じて、実質的に、iシェアーズ 米国不動産ETFと米国リート・オプション取引に加えて、為替オプション取引の投資成果と、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。
	T&Dマネーブルマザーファンド	わが国の公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組 入 制 限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。株式への直接投資は行いません。外貨建資産への直接投資は行いません。	
分 配 方 針	毎決算時（毎月20日、休業日の場合は翌営業日）に分配を行います。ただし、必ず分配を行うものではありません。分配金額は、分配対象額の範囲内で委託会社が決定するものとし、原則として、インカム収益を中心に分配を行うことを目指します。ただし、基準価額水準等によっては、売買益（評価益を含みます。）が中心となる場合があります。	

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。

さて、「米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース」は、2023年1月20日に第124期決算を行いましたので、第119期から第124期の運用状況をご報告申し上げます。

今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 **T&Dアセットマネジメント株式会社**

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先

投信営業部 03-6722-4810

（受付時間：営業日の午前9時～午後5時）

<https://www.tdasset.co.jp/>

最近 5 作成期の運用実績、基準価額の推移等

最近 5 作成期の運用実績

決 算 期		基 準 価 額			債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	クレディ・スイス・ ユニバーサル・ トラスト(ケイマン) Ⅱ－ＵＳリート・ プレミアムファンド (通貨プレミアム・ クラス)組入比率	純 資 産 額
		(分配落)	税込み 分配金	期 中 騰落率				
		円	円	%	%	%	%	百万円
第 17 作成期	95期 (2020年 8 月20日)	2,182	50	1.8	—	—	98.3	12,562
	96期 (2020年 9 月23日)	2,145	50	0.6	—	—	98.0	12,393
	97期 (2020年10月20日)	2,140	50	2.1	—	—	98.9	12,118
	98期 (2020年11月20日)	2,190	50	4.7	—	—	98.4	12,038
	99期 (2020年12月21日)	2,170	35	0.7	—	—	98.3	11,563
	100期 (2021年 1 月20日)	2,159	35	1.1	—	—	98.3	10,929
第 18 作成期	101期 (2021年 2 月22日)	2,220	35	4.4	—	—	98.4	10,794
	102期 (2021年 3 月22日)	2,216	35	1.4	—	—	98.4	10,407
	103期 (2021年 4 月20日)	2,222	35	1.9	—	—	98.4	9,934
	104期 (2021年 5 月20日)	2,210	35	1.0	—	—	98.3	9,560
	105期 (2021年 6 月21日)	2,232	35	2.6	—	—	98.8	8,550
	106期 (2021年 7 月20日)	2,223	35	1.2	—	—	98.0	7,934
第 19 作成期	107期 (2021年 8 月20日)	2,243	35	2.5	—	—	98.3	7,714
	108期 (2021年 9 月21日)	2,219	35	0.5	—	—	98.0	7,285
	109期 (2021年10月20日)	2,213	35	1.3	—	—	98.8	6,876
	110期 (2021年11月22日)	2,213	35	1.6	—	—	98.2	6,633
	111期 (2021年12月20日)	2,219	35	1.9	—	—	98.1	6,370
	112期 (2022年 1 月20日)	2,104	35	△ 3.6	—	—	97.9	5,810
第 20 作成期	113期 (2022年 2 月21日)	1,989	35	△ 3.8	—	—	97.7	5,342
	114期 (2022年 3 月22日)	2,072	35	5.9	—	—	97.9	5,381
	115期 (2022年 4 月20日)	2,156	35	5.7	—	—	98.6	5,433
	116期 (2022年 5 月20日)	1,831	35	△13.5	—	—	98.0	4,665
	117期 (2022年 6 月20日)	1,767	35	△ 1.6	—	—	97.8	4,722
	118期 (2022年 7 月20日)	1,899	35	9.5	—	—	97.9	5,192
第 21 作成期	119期 (2022年 8 月22日)	1,943	35	4.2	—	—	98.2	5,301
	120期 (2022年 9 月20日)	1,784	35	△ 6.4	—	—	97.8	5,029
	121期 (2022年10月20日)	1,600	35	△ 8.4	—	—	98.0	4,473
	122期 (2022年11月21日)	1,622	25	2.9	—	—	97.6	4,592
	123期 (2022年12月20日)	1,536	25	△ 3.8	—	—	98.7	4,195
	124期 (2023年 1 月20日)	1,511	25	0.0	—	—	98.3	4,097

(注) 基準価額および分配金は 1 万口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率＝買建比率－売建比率

(注) 当ファンドは米国リートとオプション取引を組合わせた運用を行っており、比較対象として適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

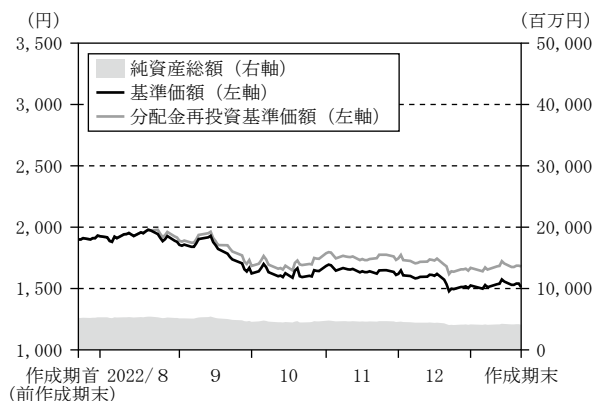
当作成期中の基準価額等の推移

決算期	年 月 日	基 準 価 額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	クレディ・スイス・ ユニバーサル・ トラスト(ケイマン) Ⅱ-ＵＳリート・ プレミアムファンド (通貨プレミアム・ クラス)組入比率
			騰 落 率			
第119期	期 首 (前期末) 2022年 7 月20日	円 1,899	% —	% —	% —	% 97.9
	7 月末	1,926	1.4	—	—	98.0
	期 末 2022年 8 月22日	1,978	4.2	—	—	98.2
第120期	期 首 (前期末) 2022年 8 月22日	1,943	—	—	—	98.2
	8 月末	1,856	△4.5	—	—	97.4
	期 末 2022年 9 月20日	1,819	△6.4	—	—	97.8
第121期	期 首 (前期末) 2022年 9 月20日	1,784	—	—	—	97.8
	9 月末	1,623	△9.0	—	—	98.0
	期 末 2022年10月20日	1,635	△8.4	—	—	98.0
第122期	期 首 (前期末) 2022年10月20日	1,600	—	—	—	98.0
	10月末	1,685	5.3	—	—	98.9
	期 末 2022年11月21日	1,647	2.9	—	—	97.6
第123期	期 首 (前期末) 2022年11月21日	1,622	—	—	—	97.6
	11月末	1,620	△0.1	—	—	97.8
	期 末 2022年12月20日	1,561	△3.8	—	—	98.7
第124期	期 首 (前期末) 2022年12月20日	1,536	—	—	—	98.7
	12月末	1,524	△0.8	—	—	97.9
	期 末 2023年 1 月20日	1,536	0.0	—	—	98.3

- (注) 基準価額は1万円当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は期首比。
- (注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。
- (注) 先物比率＝買建比率－売建比率
- (注) 当ファンドは米国リートとオプション取引を組合わせた運用を行っており、比較対象として適切な指数がないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

当作成期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額等の推移



第119期首：1,899円

第124期末：1,511円（既払分配金180円）

騰落率：△11.5%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、作成期首（2022年7月20日）の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

（注）分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額の主な変動要因

高位に組入れている「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ－USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）」において、主に米ドル円為替の変動に加え、米国リート価格の下落がマイナス寄与した結果、基準価額（分配金再投資ベース）は下落しました。

■ 組入ファンドの当作成期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ－USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）	△11.1%
T&Dマネーブルマザーファンド	△0.0

■ 投資環境

【米国リート市場】

米国リート市場は下落しました。作成期初から2022年8月前半は、7月の米CPI（消費者物価指数）とコアCPI（食料とエネルギーを除く）の伸びが前月比で市場予想以上に鈍化したと共に、7月の米PPI（生産者物価指数）の伸びが前月比でパンデミック直後以来のマイナスに転じ、米国のインフレ懸念が後退したこと等から、同市場は上昇しました。8月後半からは、8月の米コアCPIの前月比の伸びが市場予想に反して加速し、米国のインフレ長期化への懸念が再燃したこと、9月のFOMC（米連邦公開市場委員会）にて3会合連続で大幅な利上げの決定と共に、FRB（米連邦準備制度理事会）の政策金利見通しが大幅に引上げられたこと等を材料に、同市場は下落に転じました。10月後半以降は、12月のFOMCでFRBが政策金利見通しを市場の想定以上に引上げた一方、米国経済の見通しを引下げ、過度な利上げによる景気後退懸念が強まったこと等から、同市場は一時下落する場面もありましたが、10月と11月の米CPIとコアCPIの伸びが前年同期

比で市場予想以上に鈍化したことと共に、12月の米雇用統計にて賃金の伸びが市場予想以上に鈍化し、高インフレへの警戒が和らいだこと、中国政府による新型コロナウイルス対策の規制緩和による中国経済の回復期待等を受け、同市場は緩やかな上昇基調で推移しました。

【為替動向】

米ドルは対円で下落しました。作成期初から2022年8月上旬は、7月の米CPIやPPIの伸びが前月比で市場予想以上に鈍化し、FRBの利上げペース鈍化期待が高まったこと等から、米ドルは対円で下落しました。8月中旬からは、8月の米コアCPIの前月比の伸びが市場予想に反して加速し、FRBによる利上げ長期化懸念が再燃したこと、9月のFOMCにて3会合連続で大幅な利上げの決定と共に、政策金利見通しが大幅に引上げられたこと等を受け、米ドルは対円で上昇しました。10月下旬以降は、10月と11月の米CPIとコアCPIの伸びが前年同期比で市場予想以上に鈍化したことと共に、12月の米雇用統計にて賃金の伸びが市場予想以上に鈍化し、FRBの利上げペース鈍化期待が強まったこと、日銀が金融政策決定会合で予想外に長期金利の変動許容幅拡大を決定したこと、日本のインフレ加速が続いていること等を材料に、米ドルは対円で下落基調となりました。

【国内短期金融市場】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、作成期首の $\Delta 0.15\%$ から作成期末は $\Delta 0.17\%$ となりました。作成期中においては、国庫短期証券の入札に伴う需給悪化懸念などが金利上昇要因となり、日銀の買入オペや金融機関の担保需要などが金利低下要因となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

作成期を通じて、「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II－USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）」を高位に組入れ、「T&Dマネープールマザーファンド」にも投資を行いました。

【クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）II－USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）】

主としてクレディ・スイス・インターナショナルを相手方とする担保付スワップ取引を高位に組入れ、当該取引を通じて実質的に、iシェアーズ 米国不動産ETFと米国リート・オプション取引に加えて、為替オプション取引の投資成果の享受を目指す運用を行いました。

【T&Dマネープールマザーファンド】

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、作成期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

* iShares®（iシェアーズ®）はブラックロックの登録商標です。ブラックロックは「米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース」について出資、発行、保証、販売および販売の促進をするものではありません。またブラックロックは、「米国リート・プレミアムファンド（毎月分配型）通貨プレミアム・コース」への投資についてなんら意見を表明、あるいは保証するものではなく、ファンドにかかる業務、営業、トレーディングおよび販売に関して、一切責任を負うものではありません。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 分配金

1 万口当たりの分配金（税込み）は分配可能額、基準価額水準等を勘案し、第119期から第121期まで各35円、第122期から第124期まで各25円とさせていただきました。収益分配に充てなかった利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■ 今後の運用方針

【当ファンド】

「クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ－USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）」の組入比率を高位に保ち、もう一方の投資対象である「T&Dマネープールマザーファンド」への投資も継続する方針です。

【クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ－USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）】

担保付スワップ取引を通じて、実質的に i シェアーズ 米国不動産 E T F への投資と米国リートのコールオプションの売却を行い、安定した配当収入の確保と値上がり益の獲得を目指します。加えて、当クラスでは比較的短期の米ドル・円のコールオプションの売却も行い、為替オプション取引の投資成果を享受することを目指します。

【T & D マネープールマザーファンド】

日本経済は、国内外における新型コロナウイルスの流行の影響を受けながらも、緩やかな持ち直しの動きがみられます。インフレ率については、プラス圏で推移していくと予想されます。こうしたなか、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1 万口当たりの費用明細（2022年 7 月 21 日から 2023 年 1 月 20 日まで）

費用の明細

項目	第119期～第124期		項目の概要
	2022/ 7 / 21～2023/ 1 / 20		
	金額	比率	
平均基準価額	1, 705円		作成期間の平均基準価額です。
(a) 信託報酬 （投信会社） （販売会社） （受託会社）	12円 （ 4 ） （ 8 ） （ 0 ）	0. 682% (0. 222) (0. 444) (0. 017)	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内での ファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料 （投資信託証券）	0 （ 0 ）	0. 017 (0. 017)	(b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料／作成期間の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う 手数料
(c) その他費用 （監査費用） （その他）	0 （ 0 ） （ 0 ）	0. 008 (0. 008) (0. 000)	(c) その他費用＝作成期間のその他費用／作成期間の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 その他は、金銭信託に係る手数料
合計	12	0. 707	

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

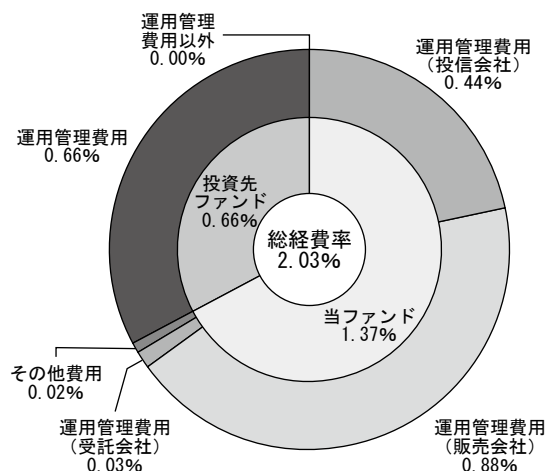
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は 1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して 100 を乗じたもので、項目ごとに小数第 3 位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期中の平均受益権口数に作成期中の平均基準価額（1 口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は、2. 03% です。



総経費率（①＋②＋③）	2. 03%
①当ファンドの費用の比率	1. 37%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0. 66%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0. 00%

(注) ①の費用は、1 万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券（親投資信託を除く）です。

(注) ①の費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

売買および取引の状況（2022年7月21日から2023年1月20日まで）

(1) 投資信託証券

		第 119 期 ～ 第 124 期			
		買 付		売 付	
		口 数	金 額	口 数	金 額
外 国 (邦貨建)	クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II-USリート・プレミアム ファンド (通貨プレミアム・クラス)	口 161,266	千円 290,000	口 164,490	千円 263,207

(注) 金額は受渡代金。単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

		第 119 期 ～ 第 124 期			
		設 定		解 約	
		口 数	金 額	口 数	金 額
T & D マネーブールマザーファンド		千口 —	千円 —	千口 9,151	千円 9,280

(注) 単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等（2022年7月21日から2023年1月20日まで）

当作成期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細（2023年1月20日現在）

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

フ ァ ン ド 名	前作成期末 (第118期末)	当 作 成 期 末 (第 124 期 末)		
	口 数	口 数	評 価 額	比 率
	口	口	千円	%
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ－ USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）	2, 702, 220	2, 698, 995	4, 027, 873	98. 3

（注）比率は純資産総額に対する評価額の比率。

（注）口数・評価額の単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託残高

種 類	前作成期末 (第 118 期 末)	当 作 成 期 末 (第 124 期 末)	
	口 数	口 数	評 価 額
	千口	千口	千円
T & D マネープールマザーファンド	28, 961	19, 809	20, 087

（注）T & D マネープールマザーファンド全体の受益権口数は334, 220千口です。

（注）単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成（2023年1月20日現在）

項 目	当 作 成 期 末 (第 124 期 末)	
	評 価 額	比 率
	千円	%
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ－ USリート・プレミアムファンド（通貨プレミアム・クラス）	4, 027, 873	96. 4
T & D マネープールマザーファンド	20, 087	0. 5
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	129, 417	3. 1
投 資 信 託 財 産 総 額	4, 177, 377	100. 0

（注）評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年8月22日現在 2022年9月20日現在 2022年10月20日現在 2022年11月21日現在 2022年12月20日現在 2023年1月20日現在

項 目	第119期末	第120期末	第121期末	第122期末	第123期末	第124期末
(A) 資 産	5,464,128,573円	5,145,601,108円	4,603,465,842円	4,679,034,400円	4,309,269,903円	4,177,377,489円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	226,385,853	196,021,112	188,531,651	167,452,290	139,824,208	129,416,728
クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト (ケイマン) II－USリート・プレミアム ファンド (通貨プレミアム・クラス) (詳価額)	5,208,369,806	4,920,207,082	4,385,564,173	4,482,212,092	4,140,078,573	4,027,873,640
T&Dマネーボールマザーファンド(詳価額)	29,372,914	29,372,914	29,370,018	29,370,018	29,367,122	20,087,121
(B) 負 債	162,724,420	116,538,742	129,894,437	86,498,686	113,530,658	80,066,871
未 払 収 益 分 配 金	95,479,177	98,643,186	97,866,929	70,772,821	68,291,624	67,808,454
未 払 解 約 金	60,692,845	12,222,096	26,764,905	10,174,668	40,323,593	7,449,020
未 払 信 託 報 酬	6,478,357	5,609,250	5,203,059	5,488,421	4,859,858	4,755,141
未 払 利 息	315	373	335	316	277	141
そ の 他 未 払 費 用	73,726	63,837	59,209	62,460	55,306	54,115
(C) 純 資 産 総 額 (A－B)	5,301,404,153	5,029,062,366	4,473,571,405	4,592,535,714	4,195,739,245	4,097,310,618
元 本	27,279,765,007	28,183,767,689	27,961,979,743	28,309,128,774	27,316,649,715	27,123,381,876
次 期 繰 越 損 益 金	△21,978,360,854	△23,154,705,323	△23,488,408,338	△23,716,593,060	△23,120,910,470	△23,026,071,258
(D) 受 益 権 総 口 数	27,279,765,007口	28,183,767,689口	27,961,979,743口	28,309,128,774口	27,316,649,715口	27,123,381,876口
1万口当たり基準価額(C/D)	1.943円	1.784円	1.600円	1.622円	1.536円	1.511円

(注) 当ファンドの第119期首元本額は27,347,572,653円、第119～124期中追加設定元本額は4,733,702,510円、第119～124期中一部解約元本額は4,957,893,287円です。

(注) 元本の欠損

第124期末現在、純資産総額は元本を下回っており、その差額は23,026,071,258円です。

(注) 第124期末の1口当たり純資産額は0.1511円です。

損益の状況

自2022年7月21日 自2022年8月23日 自2022年9月21日 自2022年10月21日 自2022年11月22日 自2022年12月21日
至2022年8月22日 至2022年9月20日 至2022年10月20日 至2022年11月21日 至2022年12月20日 至2023年1月20日

項 目	第119期	第120期	第121期	第122期	第123期	第124期
(A) 配 当 等 収 益	94,133,958円	95,228,658円	96,563,548円	97,587,660円	68,226,628円	67,085,675円
受 取 配 当 金	94,137,885	95,235,545	96,569,357	97,592,685	68,231,454	67,089,537
取 利 息	71	—	—	—	—	—
支 払 利 息	△ 3,998	△ 6,887	△ 5,809	△ 5,025	△ 4,826	△ 3,862
(B) 有 価 証 券 売 買 損 益	126,743,349	△ 433,448,579	△ 502,600,622	39,384,700	△ 230,710,237	△ 63,038,001
売 買 益	128,457,104	2,565,862	12,971,024	41,628,532	4,856,092	1,278,996
売 買 損	△ 1,713,755	△ 436,014,441	△ 515,571,646	△ 2,243,832	△ 235,566,329	△ 64,316,997
(C) 信 託 報 酬 等	△ 6,552,083	△ 5,673,087	△ 5,262,289	△ 5,550,881	△ 4,915,164	△ 4,809,256
(D) 当 期 損 益 金 (A+B+C)	214,325,224	△ 343,893,008	△ 411,299,363	131,421,479	△ 167,398,773	△ 761,582
(E) 前 期 繰 越 損 益 金	△ 3,467,246,130	△ 3,299,546,601	△ 3,624,261,639	△ 4,032,133,197	△ 3,768,403,060	△ 3,920,550,103
(F) 追 加 信 託 差 損 益 金	△18,629,960,771	△19,412,622,528	△19,354,980,407	△19,745,108,521	△19,116,817,013	△19,036,951,119
(配 当 等 相 当 額)	(3,137,421,999)	(3,239,363,309)	(3,205,542,797)	(3,239,873,108)	(3,127,126,165)	(3,105,661,047)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△21,767,382,770)	(△22,651,985,837)	(△22,560,523,204)	(△22,984,981,629)	(△22,243,943,178)	(△22,142,612,166)
(G) 合 計 (D+E+F)	△21,882,881,677	△23,056,062,137	△23,390,541,409	△23,645,820,239	△23,052,618,846	△22,958,262,804
(H) 収 益 分 配 金	△ 95,479,177	△ 98,643,186	△ 97,866,929	△ 70,772,821	△ 68,291,624	△ 67,808,454
次 期 繰 越 損 益 金 (G+H)	△21,978,360,854	△23,154,705,323	△23,488,408,338	△23,716,593,060	△23,120,910,470	△23,026,071,258
追 加 信 託 差 損 益 金	△18,634,098,488	△19,421,710,143	△19,361,546,077	△19,745,108,521	△19,116,817,013	△19,036,951,119
(配 当 等 相 当 額)	(3,133,284,282)	(3,230,275,694)	(3,198,977,127)	(3,239,873,108)	(3,127,126,165)	(3,105,661,047)
(売 買 損 益 相 当 額)	(△21,767,382,770)	(△22,651,985,837)	(△22,560,523,204)	(△22,984,981,629)	(△22,243,943,178)	(△22,142,612,166)
分 配 準 備 積 立 金	—	—	—	22,859,836	17,026,969	11,327,756
繰 越 損 益 金	△ 3,344,262,366	△ 3,732,995,180	△ 4,126,862,261	△ 3,994,344,375	△ 4,021,120,426	△ 4,000,447,895

(注) 損益の状況の中で

(B) 有価証券売買損益は、各期末の評価換えによるものを含みます。

(C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

分配金の計算過程

【第119期】
計算期間末における費用控除後の配当等収益（91,341,460円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）および収益調整金（3,137,421,999円）より、分配対象収益は3,228,763,459円（1万口当たり1,183円）であり、うち95,479,177円（1万口当たり35円）を分配金額としております。

【第120期】
計算期間末における費用控除後の配当等収益（89,555,571円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）および収益調整金（3,239,363,309円）より、分配対象収益は3,328,918,880円（1万口当たり1,181円）であり、うち98,643,186円（1万口当たり35円）を分配金額としております。

【第121期】
計算期間末における費用控除後の配当等収益（91,301,259円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）および収益調整金（3,205,542,797円）より、分配対象収益は3,296,844,056円（1万口当たり1,179円）であり、うち97,866,929円（1万口当たり35円）を分配金額としております。

【第122期】
計算期間末における費用控除後の配当等収益（93,632,657円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）および収益調整金（3,239,873,108円）より、分配対象収益は3,333,505,765円（1万口当たり1,177円）であり、うち70,772,821円（1万口当たり25円）を分配金額としております。

【第123期】
計算期間末における費用控除後の配当等収益（63,311,464円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（3,127,126,165円）および分配準備積立金（22,007,129円）より、分配対象収益は3,212,444,758円（1万口当たり1,175円）であり、うち68,291,624円（1万口当たり25円）を分配金額としております。

【第124期】
計算期間末における費用控除後の配当等収益（62,276,419円）、費用控除後の有価証券売買等損益（0円）、収益調整金（3,105,661,047円）および分配準備積立金（16,859,791円）より、分配対象収益は3,184,797,257円（1万口当たり1,174円）であり、うち67,808,454円（1万口当たり25円）を分配金額としております。

分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳 （単位：円・％、1万口当たり・税引前）

項目	第119期	第120期	第121期	第122期	第123期	第124期
	2022年7月21日 ～2022年8月22日	2022年8月23日 ～2022年9月20日	2022年9月21日 ～2022年10月20日	2022年10月21日 ～2022年11月21日	2022年11月22日 ～2022年12月20日	2022年12月21日 ～2023年1月20日
当期分配金	35	35	35	25	25	25
（対基準価額比率）	1.769	1.924	2.141	1.518	1.602	1.628
当期の収益	33	31	32	25	23	22
当期の収益以外	1	3	2	—	1	2
翌期繰越分配対象額	1,148	1,146	1,144	1,152	1,150	1,149

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。
（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下四捨五入して算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。
（注）投資信託の計理上、翌期繰越分配対象額が基準価額を上回っている場合がありますが、基準価額を超える分配金をお支払いすることはありません。

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。
※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。
※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。
※元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、個別元本から元本払戻金（特別分配金）を控除した額がその後の新たな個別元本となります。

補足情報

T & D マネープールマザーファンドの主要な売買銘柄

当作成期における売買はありません。

T & D マネープールマザーファンドの組入資産の明細

当作成期末における組入れはありません。

組入投資信託証券の内容

クレディ・スイス・ユニバーサル・トラスト（ケイマン）Ⅱ－USリート・プレミアムファンド
（円ヘッジ・クラス）／（通貨プレミアム・クラス）

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分 類	ケイマン籍／外国投資信託／円建
基本運用方針	（円ヘッジ・クラス） 主として担保付スワップ取引を投資対象とし、当該取引を通じて、実質的に、i シェアーズ 米国不動産E T Fと米国リート・オプション取引の投資成果と、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。 実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行った投資成果の享受を目指します。 （通貨プレミアム・クラス） 主として担保付スワップ取引を投資対象とし、当該取引を通じて、実質的に、i シェアーズ 米国不動産E T Fと米国リート・オプション取引に加えて、為替オプション取引の投資成果と、安定した配当収入の確保と中長期的な値上がり益の獲得を目指して運用を行います。
投資態度	（円ヘッジ・クラス） ①実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行った投資成果の享受を目指します。 ②原則として、米国リート・オプション取引の実質的な想定元本は、おおむね純資産相当額程度で行うものとします。 （通貨プレミアム・クラス） ①実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。 ②原則として、米国リート・オプション取引ならびに為替オプション取引の各々の実質的な想定元本は、それぞれおおむね純資産相当額程度で行うものとします。 ※資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。
主な投資制限	①店頭オプション、上場オプション、E T Fに原則として直接投資を行いません。 ②有価証券の空売りは行いません。
分配方針	原則として、毎月分配を行います。
投資顧問会社	クレディ・スイス・マネジメント（ケイマン）リミテッド

※次ページ以降の記載は、組入投資信託証券の関係会社より入手した情報をもとに作成しております。当社は、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。

(1) (2)：バンクオブニューヨークメロン証券株式会社より入手した監査済報告書を、当社が一部和訳したものです。

(3)：ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン（シンガポール支店）より入手したデータをもとに作成したものです。

(1) 各クラスの状態

作成基準日：2022年1月31日

	受益権総口数
円ヘッジ・クラス	98,381口
通貨プレミアム・クラス	2,713,082
合計	2,811,463口

(注) 日付は現地基準です。

(2) 損益計算書

計算期間：2021年2月1日～2022年1月31日

単位：円

収益

手数料収入	1,685,791,346
担保付スワップ取引に係る純損益	1,035,439
投資純損益	1,686,826,785

費用

運用費用	57,421,792
運用費用合計	57,421,792

分配前の期中の純資産変動	1,629,404,993
--------------	---------------

支払分配金	(1,628,369,554)
-------	-----------------

分配後の期中の純資産変動	1,035,439
--------------	-----------

(注) 日付は現地基準です。

(注) () 書きは負数です。

(3) 組入資産の明細

作成基準日：2022年1月31日

担保付スワップ

単位：円

想定元本額	評価額
983,809,755	294,701,196
27,130,816,718	5,653,709,504
合計	5,948,410,700

(注) 日付は現地基準です。

T & D マネープールマザーファンド

運用報告書（全体版） 第36期（決算日 2022年12月12日）
（計算期間 2022年6月11日から2022年12月12日）

「T & D マネープールマザーファンド」は、2022年12月12日に第36期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目指して運用を行います。
主要運用対象	わが国の公社債および短期金融商品等を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		債 組 入 比 率	債 先 物 比 率	純 資 産 総 額
		期 騰 落 中 率			
	円	%	%	%	百万円
32期（2020年12月10日）	10,151	△0.0	—	—	430
33期（2021年6月10日）	10,148	△0.0	—	—	430
34期（2021年12月10日）	10,145	△0.0	—	—	409
35期（2022年6月10日）	10,143	△0.0	—	—	396
36期（2022年12月12日）	10,140	△0.0	—	—	348

（注）基準価額は1万円当たり。

（注）先物比率＝買建比率－売建比率

（注）当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

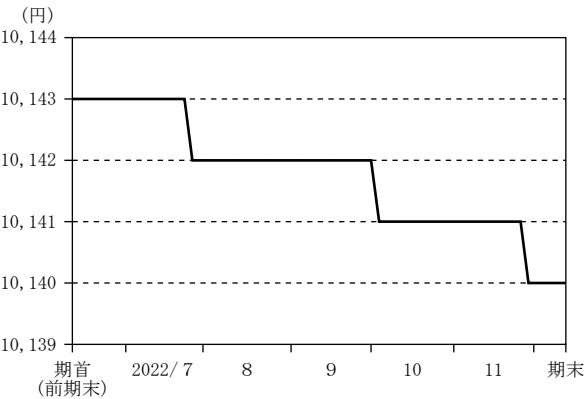
当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額 騰 落 率	債券組入比率	債券先物比率
期首（前期末） 2022年 6 月10日	円 10,143	% —	% —
6 月末	10,143	0.0	—
7 月末	10,142	△0.0	—
8 月末	10,142	△0.0	—
9 月末	10,142	△0.0	—
10月末	10,141	△0.0	—
11月末	10,140	△0.0	—
期 末 2022年12月12日	10,140	△0.0	—

(注) 基準価額は1万円当たり。騰落率は期首比。
(注) 先物比率＝買建比率－売建比率
(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の10,143円から期末は10,140円となりました。運用対象であるコールローン等の利回りがマイナスで推移したことから下落しました。

■ 投資環境

【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の△0.10%から期末は△0.18%となりました。期中においては、国庫短期証券の入札に伴う需給悪化懸念などが金利上昇要因となり、日銀の買入オペや金融機関の担保需要などが金利低下要因となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

国庫短期証券の利回りがマイナスで推移したため組入れを見送り、期を通じて組入比率は0%としました。資産については、全額コールローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 今後の運用方針

日本経済は、国内外における新型コロナウイルスの流行の影響を受けながらも、緩やかな持ち直しの動きがみられます。インフレ率については、プラス圏で推移していくと予想されます。こうしたなか、日銀の「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」が金利抑制要因として作用することから、国内金利は低位で推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1 万口当たりの費用明細 (2022年 6 月 11 日から2022年12月12日まで)

費用の明細

項目	当期	
	2022/ 6 /11～2022/12/12	
	金額	比率
平均基準価額	10,141円	
その他費用	0円	0.000%
(その他)	(0)	(0.000)
合計	0	0.000

(注) その他費用のその他は、金銭信託に係る手数料です。

売買および取引の状況 (2022年 6 月 11 日から2022年12月12日まで)

当期における売買はありません。

利害関係人との取引状況等 (2022年 6 月 11 日から2022年12月12日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2022年12月12日現在)

当期末における組入れはありません。

投資信託財産の構成 (2022年12月12日現在)

項 目	当 期		末	
	評 価 額		比	率
		千円		%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	348,187		100.0	
投 資 信 託 財 産 総 額	348,187		100.0	

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年12月12日現在

項 目	当 期 末
(A) 資 産	348, 187, 217円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	348, 187, 217
(B) 負 債	682
未 払 利 息	682
(C) 純 資 産 総 額 (A－B)	348, 186, 535
元 本	343, 371, 912
次 期 繰 越 損 益 金	4, 814, 623
(D) 受 益 権 総 口 数	343, 371, 912口
1 万口当たり基準価額 (C/D)	10, 140円

- (注) 期首元本額 390, 707, 944円
 期中追加設定元本額 4, 308, 880円
 期中一部解約元本額 51, 644, 912円

(注) 1 口当たり純資産額は1. 0140円です。

- (注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳
- | | |
|-------------------------------------|----------------|
| T & Dインド中小型株ファンド | 69, 040, 591円 |
| 米国リート・プレミアムファンド (毎月分配型) 円ヘッジ・コース | 1, 653, 709円 |
| 米国リート・プレミアムファンド (毎月分配型) 通貨プレミアム・コース | 28, 961, 659円 |
| 米国リート・プレミアムファンド (年2回決算型) マネーボール・コース | 88, 475円 |
| 豪州高配当株ツインαファンド (毎月分配型) | 13, 377, 036円 |
| 野村エマージング債券投信 (円コース) 毎月分配型 | 15, 203, 451円 |
| 野村エマージング債券投信 (円コース) 年2回決算型 | 4, 690, 232円 |
| 野村エマージング債券投信 (米ドルコース) 毎月分配型 | 6, 884, 550円 |
| 野村エマージング債券投信 (米ドルコース) 年2回決算型 | 1, 424, 313円 |
| 野村エマージング債券投信 (豪ドルコース) 毎月分配型 | 13, 394, 468円 |
| 野村エマージング債券投信 (豪ドルコース) 年2回決算型 | 1, 651, 239円 |
| 野村エマージング債券投信 (ブラジルリアルコース) 毎月分配型 | 124, 252, 174円 |
| 野村エマージング債券投信 (ブラジルリアルコース) 年2回決算型 | 7, 765, 966円 |
| 野村エマージング債券投信 (南アフリカランドコース) 毎月分配型 | 1, 413, 489円 |
| 野村エマージング債券投信 (南アフリカランドコース) 年2回決算型 | 131, 726円 |
| 野村エマージング債券投信 (カナダドルコース) 毎月分配型 | 555, 674円 |
| 野村エマージング債券投信 (カナダドルコース) 年2回決算型 | 71, 774円 |
| 野村エマージング債券投信 (メキシコペソコース) 毎月分配型 | 23, 292, 362円 |
| 野村エマージング債券投信 (メキシコペソコース) 年2回決算型 | 3, 988, 327円 |
| 野村エマージング債券投信 (トルコリラコース) 毎月分配型 | 15, 489, 184円 |
| 野村エマージング債券投信 (トルコリラコース) 年2回決算型 | 2, 464, 915円 |
| 野村エマージング債券投信 (金コース) 毎月分配型 | 3, 974, 765円 |
| 野村エマージング債券投信 (金コース) 年2回決算型 | 2, 773, 196円 |
| 野村エマージング債券投信 (マネーボールファンド) 年2回決算型 | 828, 637円 |

損益の状況

当期 自2022年6月11日 至2022年12月12日

項 目	当 期
(A) 配 当 等 収 益	△ 103, 688円
受 取 利 息	322
支 払 利 息	△ 104, 010
(B) 信 託 報 酬 等	△ 35
(C) 当 期 損 益 金 (A+B)	△ 103, 723
(D) 前 期 繰 越 損 益 金	5, 592, 314
(E) 追 加 信 託 差 損 益 金	61, 120
(F) 解 約 差 損 益 金	△ 735, 088
(G) 合 計 (C+D+E+F)	4, 814, 623
次 期 繰 越 損 益 金 (G)	4, 814, 623

(注) 損益の状況の中で

(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

(F)解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。